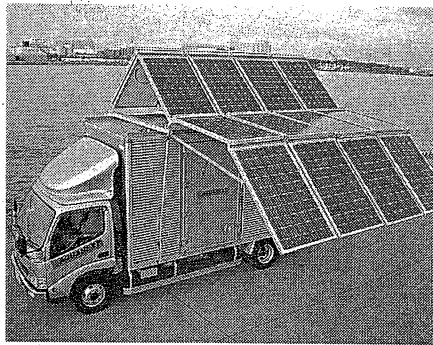


グループでピザチェーンなどを展開するいちごホールディングス(HD)、仙台市、宮下雅光社長)が販売する、海水などを飲料水に変える浄水化システム「アクアネクスト」が注目されている。

食を支える

従来は発展途上国などで安全な水を供給する目的で事業を進めてきたが、東日本大震災を機に緊急時の需要が拡大しつつあるためだ。震災発生から2週間後の3月25日、公益社団法

いちごHD 移動式浄水化システム



太陽光で発電し、飲料水を供給するアクアネクストソーラーカー

アクアネクスト いちごホールディングスが手掛ける移動型の海水・汚水淡水化装置事業の総称。同装置は発電に太陽光やガソリンを使い、自然災害による被災地や発展途上国での需要を見込む。取扱商品は手動式の小型浄水器「レスキュー12」、「レスキュー96」をはじめ、移動型飲料水化システム「アクアネクストソーラーカー」など。価格は60万～5000万円。

人「こども環境フォーラム」(神戸市)は被災地宮城県気仙沼市に向かう。4トトラックに積まれたのは食糧などの支援物資と、海水や汚水を飲料水にする「移動式海水淡水化システム」だ。現地に着した26日に

は早速、気仙沼市内の学校でプールの水を飲料水にする給水活動に取りかかった。2日間で7・5リットルを真水に変えて供給している。海水や汚水をRO膜と画し販売するのがいちごHDだ。グループ会社の

被災地でも飲料水確保

もとは安全な水が手に入りにくいアフリカなど向けに開発されたが、昨秋に鹿児島県奄美地方で発生した集中豪雨時にも活躍した。

同システムは高い圧力で海水・汚水を押し出すため、従来は電力を多く使い、機械も大型となっていた。

だが今回のシステムでは、少電力で高圧力を得られる小型の高圧ポンプを搭載。電力は太陽光などを搭載。電力は太陽光などを搭載。電力は太陽光などを搭載。

「海に重油が広がり、プールにも車などが流れ込んでいたため水源が確保できない」(宮下社長)状況だが、水源が確保できれば活躍の場は広がる。

(中村奈都子)

グループでピザチェーンなどを展開するいちごホールディングス(HD)、仙台市、宮下雅光社長)が販売する、海水などを飲料水に変える浄水化システム「アクアネクスト」が注目されている。